



明石市立  
文化博物館

# 文化博物館だより 第168号

2007年6月21日

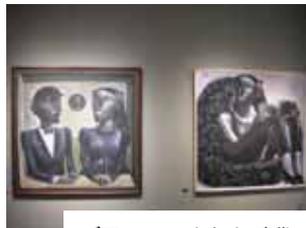
みなさん、こんにちは。梅雨なのに青空が続いていますね。水不足が心配です。

## ● 第3回 小原先生に聞きました。

小原実知成展は、作品が時計回りにほぼ年代順に並んでいます。見ていると、数枚ごとに作風ががらりと変わっていることに気づかれると思います。



色鮮やかな時代



デフォルメされた時代



写実的な時代

「人形」「デフォルメされた人物」「写実的」「鮮やかな色遣い」「鉛色の世界」...  
小原先生のテーマは常に「人間」ですが、その表現スタイルは時代によって大きく変化しています。色をたくさん使うと、色を否定したくなる。写実的に描いていると、デフォルメして自由に作り変えたいくなる。そういう反作用の波が起こるそうです。展示室でぐるりと作品を見回すと、その波がはっきり見ることができます。その波は身の周りの事件が契機となるそうです。その事件のいくつかを、次回ご紹介いたします。

## ● ボランティア研修が始まりました。

6月16日(土) 第1回ボランティア研修が開かれ、ご応募いただいた35名の方にお集まりいただきました。文博ボランティアの募集は2年ぶりです。これから毎週、ボランティアさんによる研修が行われます。

初日のガイダンスはオープンな空間で行われました



小原先生は作風が変化することについて「まだ発展途上」と仰いました。ボランティアさんもたいへん勉強熱心です。いくつになっても成長し続けようとするその姿勢を見習いたいと思いました。